

2016年3月20日(日)

福島大学 M講義棟・22号教室

日本は、広島、長崎、ビキニ、福島と被ばく体験をしているにもかかわらず、核兵器に依存し、原発を基幹エネルギーとしている。日本が核と決別できない背景を検証し、核と決別するための方策を探求したい。

9:30 開会挨拶と問題提起 佐々木猛也 日本反核法律家協会 会長

9:45 「マーシャル諸島発 国際司法裁判所への提訴：  
核被害を繰り返さない証を求めて」 明星大学 竹峰誠一郎

10:05 「日本はなぜ核を手放せないのか」 共同通信社 太田昌克

11:00 休憩

11:05 「日本の核政策と反核感情」 福島大学 黒崎輝

11:25 「被災地の人々にどう向き合うかー平和学の立場から」  
環境・平和研究会共同代表 嶋原敦子

11:45 質疑・討論

12:15 昼食

13:00 「NPT体制の現状と私たちの課題」 明治大学 山田寿則

13:20 パネルディスカッション「日本はなぜ核を手放せないのか」



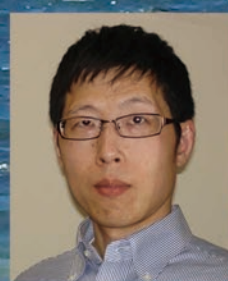
コーディネーター  
山田寿則



太田昌克



嶋原敦子



黒崎輝



竹峰誠一郎

14:25 まとめと閉会挨拶 大熊政一 日本国際法律家協会 会長

共催：日本反核法律家協会・日本国際法律家協会

日本はなぜ核を手放せないのか